

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	千葉大学	整理番号	O03
プログラム名称	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	中谷 晴昭	プログラム コーディネーター	中山 俊憲

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、学長を中心として全学できめ細かく管理、運営され、千葉大学の特徴を生かしたプログラムが構築されていることから、十分に評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性について、グローバルリーダー像の具体化については問題が残る。一方、CCPP(Chiba Career Path Professor Program)によるワークショップ等を開催し、グローバルリーダーの育成に種々の工夫を実施していることは評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学長を中心として大学が一丸となって取り組んでおり、継続性の観点からも評価できる。また、FD活動の推進に迅速に着手している点についても評価できる。

優秀な学生の獲得については、募集定員の10倍以上の入学希望者から学生が選抜されており、優秀な学生が獲得できていると判断できる。学生の意欲も高く、学生の自主性を重視した教育がなされている。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、学位質保証のための取組やプログラムの自己評価が適切になされており、海外大学との国際学位共同プログラムを設置し、国際標準の学位審査システム構築が計画されるなど、本プログラムを世界標準での教育プログラムとして確立させようとする具体的な姿が見られることから評価できる。一方、グローバルリーダー像の教員間における共有は道半ばであるため、今後の努力が望まれる。

事業の定着・発展については、千葉大学が国立大学法人運営費交付金における3つの重点支援枠において「重点支援③（卓越した成果を創出している海外大学と伍して全学的に世界で卓越した教育研究・社会実装を推進）」の区分に決定され、その機能強化の取組の1つとして本プログラムを位置付けており、支援期間終了後も大学独自の経費により本プログラムでスタートした全科目を医学薬学府の大学院科目として維持することを決定しているなど、本プログラムの継続性の見通しが得られており、評価できる。